

幸手市立東中学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

●平均正答率

【埼玉県学調】

●学習方略・非認知能力の平均値

●学力が伸びた生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調（平均正答率） ・国語は全国平均と同程度 ・数学は全国平均を上回る。	学年により、若干、全国・県平均を下回る教科が見られた。基礎・基本のさらなる徹底が課題であると考えられる。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力 全項目で県平均を上回る。 ・学力の伸び （伸ばした割合） 中2の国語、中3の英語 に若干の課題が見られる。	支持的風土が醸成された学年・学級経営により、生徒の学習方略・非認知能力が全項目、県平均を上回ったと考えられる。
③幸手市統一学力調査 （平均正答率） 中1、中2とも、ほとんどの教科において、全国平均を上回る。	授業においては、ICT機器の活用や、生徒同士の対話ややり取りの充実、確認テストや振り返りの確実な実施等により、生徒の学力の底上げを図っていく。

困難を乗り越え、粘り強く努力し、よりよい未来を切り拓く生徒を育みます。

学校全体での取組



- ✿ 生徒用GIGAタブレット端末の活用・校務のDX化
 - 授業等において、アプリケーションを活用し、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図る。
 - ICTサポーター等を活用し、校務のDX化を推進する。
- ✿ 非認知能力の向上
 - 東中学校教育グランドビジョンに基づき、普段の学校生活や学校行事等を通じて、「向上心」「調整力」「コミュニケーション力」「郷土愛」の4つの非認知能力の向上に全校をあげて取り組む。
- ✿ 生徒の実態把握及び学年・学級経営の充実
 - 各種調査結果やその分析等による客観的な生徒の実態把握に基づき、授業改善及び個別最適な学びを推進するとともに、学年・学級経営のより一層の充実に生かす。

学びを深める授業づくり



- ✿ 「確かな学力」育成のための方策
 - 授業時数特例校制度（文部科学省）を活用した教育の推進（情報活用能力・消費者教育）
 - 全教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進
 - デジタル・シティズンシップ教育の推進
 - 各種学力調査の活用（全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、幸手市統一学力調査）
 - 学習コンクール（コンテスト）の実施
 - PBL（Project Based Learning）の推進
 - 道徳教育の充実（道徳科を要とした道徳教育の充実）
 - 新体力テストの結果分析と活用
- ✿ 基礎・基本の徹底
 - 県の「コバトン問題集」「復習シート」、市の「パワーアップシート」の繰り返しの活用

落ち着いた学級づくり



- ✿ 教育相談体制の充実
 - 定期的な生活アンケートの実施による客観的な生徒の実態把握に努めるとともに、全職員が会議等における情報交換を通して、生徒の状況を確実に共通理解し、組織的に対応する。
 - 福祉部局、児童相談所等の外部機関と積極的に連携する。
- ✿ 規律ある態度の育成
 - 生徒が自らを律することを何より重視する。東中の決まりを生徒・保護者に確実に周知のうえ、教職員一丸となって規律ある態度の育成に取り組む。
- ✿ 幸せの要（い）場所づくり
 - 生徒会活動、委員会・係活動、部活動などの充実により、生徒自身が「要（い）場所」や「自己有用感」を感じるような教育活動を意図的に設定し、全校をあげて取り組む。
 - 各学期末にEAST賞（賞状）を授与すること等による生徒の「自己効力感」の高揚を図る。

学校間連携・家庭連携



- ✿ 家庭学習の習慣化
 - 家庭学習ノート（交流帳）を活用した生徒の家庭学習状況の把握及び指導・助言
 - 定期テスト前の部活動停止期間におけるアウトメディア・チャレンジの実施
- ✿ 東中校区内の連携
 - 東中校区の3小学校と連携した教育活動の展開
 - 生徒指導連絡協議会 ●学校保健委員会
 - 学校運営協議会 ●学力向上連絡協議会
 - 教育相談連絡協議会 ●アウトメディアチャレンジ
- ✿ 家庭・地域等との連携強化
 - 東中学校学校運営協議会やPTA活動、学校応援団、学校OB、クラブチーム、地域住民との連携
 - 情報発信（学校だより、学校ホームページ、学校メールの活用）